

松か枝に鶴の遊ふや花の友

龍齋

結婚五十二年夢の間に

松竹に千代もやちよも老のはる

松花

過て良人ことし古稀の

はしり枝の長き老木やうめの花

雪峯

春を迎へければ

春立やことに稀なるみとりせつ

赤津

窗月

何事も連て嬉しややとの春

妻

尾上女

長うなる日の楽しさや百千とり

夏川

麗はしき艶もつ髭や飾海老

福良

梅塙

年徳や備る餅も七かさね

三代
八十六

希柳

迎へ諸大家より賀章を
恵まれし有かたさに

いにしへも今も変らすとしの花

須賀川

文祝

わけもなく月日重ねてとしの花

長閑さや鶴は七重の雲の上

北外

四時

わか草や数の中より扇丈

雪窗

贅えいの自在にまはる蚕かな

梅か香まがきや籬まがきの外を何処迄も

米甫

閑子鳥この一つ家は手もさても
むさく馬の喰けり露の草

名に高き老木や花も七重八重

居村

魯石

手の伸るほとは動かぬこたつかな

鶯もいての目先やもちとり

香存

落墨

このうへも幾十返りそ老の春

離山

根つよさの色に出けり霜の松

八重垣をこして見ゆるや松の花

里山

古過て猶おもむき有や花の兄

万才や先七福を口ひらき

水心

諸ともに幾世重ねん梅椿

天晴な花てこそあれ福寿草

金重

追加

長閑なる髭の光やかさり海老

月虫

七ひろに余れる幹やまつの花

古木程香も又深しうめの花

双恁

おもしろき春や雪まで舞て降

七十の数をはずみの手鞠かな

女竹

老木から咲て見せけりうめの花

動く度伸るはかりの柳かな

与祢女

是からか誠の春よ梅のはな

先年の齡を鶴の八声かな

湖風

万代のかさし種也うめ椿

いととも摘ん芹あり若菜あり

九十五翁

三生

あと先のどちらも長し老のはる

石井君の古稀を保す

福良

六石

琶岬老の古稀を鶴の画を贈りて

万歳や寿しと打つゝみ

白川

竹晴

寿く

このうへも生かさねても千とり

猪苗代

瀨月

舞鶴の広げるやうそ空の春

誰目にも老木と見えず花の色

猪苗代

瀨月

石井大人の古稀の賀に併て

掬水園の翁は菊のしたゝりを

茶竹堂主人の床上を祝す

結て別号となせしものならんや

下総

竹城

今年古稀の齡をかさねて菊

尾張
同

乙外

兒童の如くまめやかなるを寿く

尾張
同

二道

無量寿の花咲にけり老の春

壮山

祖父健に七十の春を迎へられしに

安房

椿山

此上にさく千万やとしの花

孫

沈流

慈父古稀の春を迎へしを

丙申の三月

応需七十八老青宜書印

いつ迄も幹も丈夫にまつの花

男

香澤

爺さまの上下ちよつと衣かへ

少年

捨雄